大病から奇跡の生還！ つづき

小杉傅一郎さんに聞く

ご自身もびっくりされたでしょう!?

小杉：びっくりした！…正直言いますよ。私悪くなって。こっそりですが、静岡は遠いから違う整体に３回くらい行きました。ところが返って壊された。それで他所の価値観がわかった。それで気導術でないと絶対ダメだと思いました。で、無理にお願いして頼んだんです。

本部長：奥さんと一緒に来られたんで、二日目の治療を終わって、ご主人がスクワットやってる姿を見て、奥さんが泣いてるんですよ。良かったなあって本当に思いましたね。

良かったですね～！その時にもう自分は大丈夫だなっていう感覚はありましたか？

小杉：それがね、執刀医の言う「一年後に再手術しますよ」というのが頭を離れなかったんですよ。それで、その執刀医に「気をつけたら治る可能性はないんですか？手術の必要がなくなることはないんですか？」と聞くとキッパリ「あり得ません」と。悪くなっても良くなることは絶対にありません。自分はそういう症例を見たことがないと言われました。

私としては絶対に治りたいという気持ちが強かったので、２０２２年の十月二十日と二十一日に、また本部長に無理を言ってなんとか日程を取ってくださいとお願いして、また静岡に行ったんです。再手術を控えているので、しなくていいようにお願いしますよ！と頼んだんです。

そう言われた本部長は？

小杉：任せなさいよ！と。

本部長：そう言いましたね（笑）。

いらした時のご様子はどうでした？

本部長：身体自体は前と比べたらお元気そうでした。お仕事もバリバリできてるし、前は緊急手術だったからかなり体力的にも大変だったし、いろんなこともあって、手術の３分の２くらいしかできていないと。その残りの３分の１は、当然悪くなった結果の続きなので、自然に治るものではないから、体力の戻った一年後に改めて手術という、そんな予定をしていますよということでしたが…でもここまで元気になって改めてまたお腹を開けてというのは、できるものなら回避したい。

小杉：また手術なんてする必要ありませんよ！と本部長に言われたんです。

去年十月の二度目の来院でも
確かな手応えとともに
まさに奇跡が起こった！

本部長そんなことを言ったんですか？

小杉：言ったよ！

本部長：そうですね。手術をしなくてよくなるように頑張って行きましょうということなんですが、受け取り方としては安心をしてもらったんで、施術を二日続けてやって、二日目の時にお腹の感触がすごく変わったのを手応えとして感じたので、「大丈夫だよ！検査をこれで受けてみて教えてね」と。

小杉：私思うんですけど、大丈夫だと言われると脳が反応して免疫力がグッと上がるんです。

そして２０２２年の十一月二十日に最終の検査を受けたんです。精密検査が全部あって、十二月一日の日に、医者からの最終診断が出たんです。

随分待たされて、女房と大手術になるかもしれないと覚悟していたんです。ところが先生がフィルムを見ながら、**「小杉さん！あなた、残った悪いところみんなよくなってるよ！切らなくてもいいよ！」**と。

お前、治らないって言ったじゃないか！と言いたくなったんだけど、バチが当たるから言いません（笑）。丁寧に、ありがとうございますと言って、心の中では10億当たったより嬉しかったですね。残りの部分も私が手術した部分も良くなってるから、今後何もしなくても気をつければ一生大丈夫だと言われました。